

「平和の君」～私達に向けられた剣～

イザヤ9:6 黙示録3:18～19

■ ひとりのみどりごが私たちのために生まれる

「ひとりのみどりごが私たちのために生まれる。一人の男の子が私たちに与えられる。主権はその肩にあり、その名は「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる。」

ここで主権はこの肩にあり、とありますが肩というのは重荷を負う能力のことを言い、リーダーシップや責任感と関係があります。イエス様は、私たちのために生まれてくださいました。その肩には私たちの重荷を負ってくださるという意味があります。また、イエス様には、イエス・キリストという名前だけでなく、「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」という呼び名もあります。その一つ一つがどんな意味があるのかを見ていくことで、イエス・キリストがどんな方なのか分かります。そして、あなたのためにイエス様がお生まれになったことを理解していくことができます。

■ 「不思議な助言者」= Wonderful Counselor

(1コリント2:9) (黙示録3:18～19)

聖書では、不思議という言葉が使われるときは、人ではなく神にのみ使われます。不思議という言葉はヘブル語では、奇しいこと、驚くべきことを意味しています。この不思議という言葉に関連している御言葉は、「目が見たことがないもの、耳が聞いたことのないもの、そして、人の心に思い浮かんだことがないもの。神を愛する者のために、神の備えてくださったものはみなそうである。(1コリント2:9)」です。この御言葉は、私たちが考えたり決断したり心に浮かんだことが神様からのものなのかを判断したりするときに重要な御言葉です。

また、聖書でいうカウンセラーとは、黙示録3:18～19に書いてあるように、忠告の意味があります。不思議な驚くべき助言者であるイエス様は、愛する者を叱ったり懲らしめたりします。だから、イエス様に助言されたときには、熱心に悔い改めることが必要だと聖書には書いてあります。私たちが自分の思うように生きて、自分の都合のよいところだけを聖書から取って生きていたのでは、本当の神様の声は聞こえないからです。その結果、自分の価値観を変えることができず、なぜこうなるのか、なぜ同じ罪を繰り返してしまうのかという人生になってしまいます。このように、自分の都合のよいことだけを聞いてみると、私たちが裸の恥を見ないため、目が見えるようになるためにしてくれているイエス様の助言は聞こえません。イエス様はあなたに忠告されるお方です。

■ 「力ある神」= Mighty God

これは、英雄・強い・戦士を意味します。多くのヒーロー的存在がありますが、イエス様に勝るヒーローはいません。言語で見ていくと、力強い勇士を表すギボルという言葉で、当時文化的・芸術的にも使われていました。これは、武術にも長けていて精神的にも強く、なくてはならない存在で、多大な影響をいろいろなところに与えていた存在に使われていた言葉です。ヒーローの中のヒーローといった存在です。

■ 「永遠の父」= Everlasting Father

(ヨハネ10:30 14:8, 9)

「主よ。私たちに父を見せてください。そうすれば満足します。」「ペリポ、こんなに長い間あなたがたと一緒にいるのに、あなたはわたしを知らなかったのですか。わたしを見た者は、父を見たのです。」(ヨハネ14:8, 9) これはイエス様が十字架にかかる前の夜に弟子たちと交わした会話です。イエス様は「わたしを見た者は、父を見たのです。」と言われます。それは、「わたしと父は一つです。」(ヨハネ10:30)で語られているように、イエス様と天のお父様とは一つだということです。

■ 「平和の君」= Prince of Peace

聖書ではここ1回だけに出てくる表現です。だからこそ、非常に重要です。「わたしは、平和をもたらすために来たのではなく、剣をもたらすために来たのです。」(マタイ10:34)と書いてあります。「剣をもたらす」とはどういうことなのでしょう。私たちの心に、これ

だけは嫌だやりたくない、これだけは自分の好きなようにしたい、ということはないでしょうか。イエス様は、私たちの嫌だという心を切り取るために来られたのです。私たちは穏便な当たり障りのない平和を求めています。本当の平和を求めているのでしょうか。できれば、考えないで時がすぎればよいのに、向き合わなくても解決していればよいのに、という思いはないでしょうか。こんな心を切り取り、本当の平和をもたらすために、イエス様は来てくださいました。これが、平和の君です。

■ 「剣とは」= 十字架の愛

(黙示録3:18, 19)

- ①あなたの裸の恥を現わさないため
- ②目が見えるようになるため
- ③体験したことのない愛を体験するため

剣とは十字架の愛です。イエス様の剣とは、不要なものを切り取って、私たちの心に本当の平和を与える剣です。もちろんイエス様の愛は全世界に平和をもたらすような愛です。私たちにどうしてもできないことがあります。聞くことができても、解決を私たちがもたらすことはできません。また、私たちの敵は私たちの心にいます。嫌だ、やりたくない、従いたくないという思いは、私たちの人生をずらししていきます。私たちの心からこの嫌だという思いを切り取るためにイエス様は十字架にかかられました。だからこそ、私たちは悔い改めることが必要です。なぜ、悔い改めることが必要なのでしょう。生まれつき耳が聞こえない赤ちゃんが補聴器をつけ、初めてお母さんの声を聴いたとき、お母さんからの「愛しているよ」という呼びかけに泣きそうな表情になりました。イエス様は私たちに「愛している」という言葉を語ってくださいています。

私たちは、そのイエス様からの愛を聞くことができているのでしょうか。イエス様が私たちを通してなされたいことを受け取ることができているのでしょうか。私たちに嫌だという心があると、イエス様からの愛を受け取ることができません。ここは自分の思っているようにしたいという都合のよい自分、比較や劣等感で私はだめだと思う自分、上手くいかないんじゃないかという諦めた自分、このような自分の本当の願いと敵対する思いを切り取るために、イエス様は来られました。イエス様の剣は愛です。私たちの痛んだ心を切り取るために来られたのです。私たちの心の嫌だという心を切り取っていただきませんか。

最後に

【だからこそ】(黙示録3:18, 19)

見るべきものを見ることができず、自分がどこにいるのか、何をしたらよいのか分からない、こんな私たちの迷う心のためにイエス様は十字架にかかられました。その真剣な命がけの愛で私たちに忠告をされます。愛する私たちをしかったり、懲らしめたりされます。だからこそ、熱心になって悔い改めましょう。イエス様は、「あなたは高価で尊い。あなたを愛している。」という本当の愛を伝えるために私たちの心に来られました。

イエス様が私たちに今忠告していること、そして、本当は自分でもわかっている、してはいけないことを悔い改めていきましょう。イエス様が与えてくださっていることを祈っていきましょう。そうすれば必ずイエス様は私たちに答えてくださいます。そして、今まで受け取れなかったことを受け取ることができます。本当の十字架の愛をまっすぐに聞くことができるように、神様に悔い改めていくべきことを祈りましょう。

(要約者: 山本 洋子)

(2024年12月1日)